



柏陽中だより

令和8年度
5月号

令和8年4月30日(木)
さいたま市立柏陽中学校
岩槻区大字真福寺454
電話 048(798)6655

《学校教育目標》温かい学校 喜びあふれる学校(・自ら学ぶ生徒 ・心豊かな生徒 ・粘り強い生徒)
心を成長させよう

校長 水村 亨

新年度がスタートして早いものでもう1ヶ月が過ぎました。草木の若葉が一段と鮮やかになって、風薫る5月、鯉のぼりが勢いよく翻る季節になりました。保護者の皆様におかれましては、お変わりなくお過ごしのことと存じます。

4月の学級懇談会・保護者会には、ご多用の中、多数の保護者の皆様にご参会いただき、誠にありがとうございました。様々な行事等が矢継ぎ早に行われた慌ただしい4月でしたが、生徒たちは新しいクラスや学年にも馴染み、落ち着いて様々な活動に取り組んでいます。

さて、ここで、ある生徒(A子さん)についてのお話を書きます。中学生という年頃、Aさんは反抗期を迎えたせいもあるのでしょう。普段から何かにつけて学校から帰った時、訳もなくご両親に当たり散らすことが度々ありました。特に部活のことを話題にするといつも機嫌が悪くなります。ご両親は、その原因がよく分かりませんでした。3年生の夏の大会の前に、親子でこんな会話がありました。「明日は、中学校最後の試合だね。応援に行くからね。」と父親が言うと、Aさんは「お母さん、お父さん、試合には絶対に来ないでね。見に来なくていいからね。絶対来ないでね。」でも、父親は、Aさんに内緒で試合を見に行きました。バスケットボールの試合です。Aさんは、レギュラーの5人には入れず、スコアをつけるだけの役目でしたが、ベンチで一生懸命声を出して応援をしていました。タイムアウトの時には、冷たい飲み物を3年生や2年生のレギュラーの選手に渡し、後ろからタオルで扇いでいました。3年間、休むこともなく部活動を続けていましたが、最後の大会も、試合に出ることはできませんでした。その日の夜、父親は自分の娘に、内緒で試合を見に行ったことを話し、そしてこう言いました。「最後の試合に出られなくて残念だったね。でも、自分が出られない辛さをじっと我慢してスコアをつけていたお前はとても立派だったよ。3年間部活動を頑張り続けたお前は、とても大切なことを学んだとお父さんは思っているよ。3年間本当にご苦労さま。」Aさんの頬を涙が伝っていました。その後、Aさんの顔はとても穏やかになり、訳もなく家族に当たり散らすこともなくなりました。皆さんは、この話を読んで、どのように思いましたか。特にAさんがお父さんの前で流した涙の訳が分かりますか。

このように、物事を成し遂げるにはいろいろな人の支えがあってなされるものです。表に出ている人、裏方に回っている人。力は違っても、みんなで力を合わせて一つになる事が大事なのです。皆さんにも、相手を思いやる心、協力する心、時には我慢する心は、これからも持ち続けて「チーム柏陽」として全力を出し切れるよう頑張ってもらいたいと思います。また目標を達成できたという成功体験はもちろんのこと、失敗することや負けることを味わうのも、中学時代の皆さんにとっては、どちらもとても大切なことだと思います。これらの気持ちや経験が必ず自分の心を成長させてくれます。

いよいよ今月は、16日(土)に体育祭。また、30日(土)からは、市学校総合体育大会が始まります。3年生にとっては最後の大会になります。生徒の皆さんには、体育祭の取組や部活動を通じて「みんなで力を合わせて頑張ること」の素晴らしさを学んでほしいと思います。一人ひとりの心の成長を願っています。

